

# 序

呼吸器疾患は、感染症、気道疾患、悪性疾患などと多岐に渡ります。また、診療の場も、救急外来や一般医家の外来、また市中病院の一般内科外来や入院など、必ずしも呼吸器疾患を専門としない医師が初期対応や治療に当たらざるをえないことも少なくありません。呼吸器疾患を前にして、研修医や非専門医の先生方が、日々格闘されていることでしょう。残念ながら、呼吸器疾患を専門とする医師数が充実している病院に限られている本邦の現状では、そんな先生方が呼吸器診療に、日々不安や疑問を感じていることが多いえ、ちょっとしたことも含め専門医に相談がなかなかできない状況にあると容易に想像できます。

先日、羊土社が若手研修医を対象として、呼吸器診療について知りたいことや日頃困っていることに関するアンケートを行いました。本当に数多くのご意見を頂戴しました。そこで、本増刊では、呼吸器疾患を網羅的に解説した事典的な内容でなく、アンケートをもとにして現場の疑問に答える内容にしようと考えました。そのため、専門医にとっては「あたり前」のことで、研修医や非専門医の先生にはそうでない、非常に基本的な内容や、あるいは今さら上級医に聞くことをためらってしまうような事項も取りあげています。

執筆をお願いしたのは、大学病院・市中病院・一般医家を問わず、日々、真摯に呼吸器疾患の診療や教育に取り組んでおられる先生方です。編者として、著者の先生方には普段研修医や若手医師の先生に教えていること、説明していることを思い起こしながら、臨床現場ですぐに役立つ内容をコンパクトにまとめていただくようお願いをしました。それぞれの先生方の日々の臨床の姿が目に浮かぶような、とても良い原稿ばかりかと思えます。また、基本的な事項から始まり、さらに深く学びたい方々の助けになるような専門的内容も織り込んでいただいています。

ぜひ、この本が読者の先生方の呼吸器臨床の一助となり、皆さんが診ておられる患者さんへより良い治療・ケアが届けられることを祈っております。

2015年6月

天理よろづ相談所病院 呼吸器内科・呼吸管理センター

羽白 高